

の紹介

(5) 三鷲 武, R. E. Bellman; *On an application of dynamic programming to the synthesis of Logical system*

(6) 有水 彊; 地下水運動解析に関する提案

### 3. 今後の方針

研究成果の概要よりわかるように, 1) と 2) については, ある程度の成果は得られたが, 3) と 4) についてはまったくといってよいほど行なわれず, わが国における DP の発展の偏向性がうかがえよう. 今後はとくに, 3) と 4) とに重点を置いて研究をすすめるつもりである.



## 関西支部

### 1. 運営委員会

日時: 47年11月26日

場所: 関西情報センター

議題: 第7回 IFORS/TIMS の件ほか

出席者: 横山支部長ほか10名

上記議件の詳細は, 本部第5回理事会(47.11.7)の案にもとづく京都での各行事の計画についてのものであった. 討議の途次, IFORS/TIMS の準備にあたり本部との連絡と協力を密にするのに, 本部立案の国内組織に関西支部から委員が加わるのがよからうとの意見も出された. これについては, 本部と打ち合わせるようになった.

当日の結論としてさしあたり京都で会場を準備するつごうから, 京都大学工学部三根研究室をIFORS/TIMS 関係の関西支部の窓口とすることに決定した. あわせて, 本部の計画に協力しそれを能率的に

とくに R. Bellman の来日が11月下旬にあり, その講演会において, DP の医療問題への応用が示されたが, 事例研究においては, とくに環境問題, 医療問題等の新しい開発が考えられよう.

また金曜サロンでも指摘されたように, われわれの思想で, われわれの言葉で書かれたやさしい DP の解説書が待ち望まれているので, これも一つの仕事である.

最後に他学会, 他部会との交流があったことは望ましい成果の一つであったと思うし, また今後とも続けていきたいと思っている.

推進するため, 三根教授が逐次協力者を依頼しながら, 早急に京都での準備計画を練っていくことも了承された. この準備計画案の作成を48年2月ごろまでに完了し, そのころ開催予定の運営委員会で改めて討議することになった.

### 2. 研究会活動

昨年度当支部で試みられたプロデューサー・システムの研究会は好評であったから, 本年度も引きつづき48年1月から2月にかけて, 5テーマについて開かれる予定である. 本年度のプロデューサーは下記のとおりである.

大阪大学 横山 保教授

京都大学 佐々木綱教授

神戸商大 秋葉 博教授

東レ 伊藤忠雄氏および住友金属 中川勝氏

シオノギ 後藤昌司氏および関西情報センター 野藤泰昇氏